

健康診断の活用

子どものメンタルヘルスを測る：SDQ

(Strengths and Difficulties Questionnaire：子どもの強さと困難さアンケート)

齊藤 彩

お茶の水女子大学

神尾 陽子

お茶の水女子大学、(一社)発達障害専門センター

児童青年期のメンタルヘルスは、長い生涯を幸福に社会で暮らすうえで、決して軽視してはならない。メンタルヘルスの問題が生じないように日頃、さまざまな予防的なケアが重要であるが、もしも子どもにメンタルヘルスの問題が生じた場合には早期に発見し、対応することが肝要である。実際、メンタルヘルスの問題を持ちながら、悩み苦しんでいることが親にも教師にも「健康上の問題」として正しく受け止められておらず放置されているケースは少なくない。あるいは、むしろ「問題行動」とみなされ、叱責や注意など、的外れな対応をされているケースも多数ある。子どものメンタルヘルスの問題への対応が遅れると、心の不健康状態は何年も慢性化し、ケースによっては重篤化する。深刻な精神疾患の発症に至らなかったとしても、学習不振、不登校、非行などに至り、大切な時間を無駄にしかねない。さらに成人後の人格の発達に傷を残すことになるだけでなく、成人後の社会生活に深刻な影響を及ぼす (Copeland et al., 2015)。

精神疾患やメンタルヘルスについては、まだ社会の誤解や偏見が残っており、家庭ごとにさまざまな価値観があり、扱う際には、実証的なエビデンスに立脚したアプローチを用いる必要がある。そこで、本章では、子どもにとって最も長い時間を過ごし、さまざまな経験を通じた成長の場である、学校でのメンタルヘルスの早期発見に有用な、簡便なメンタルヘルスを測定する質問紙、SDQ、について紹介する。

1. メンタルヘルスを測る尺度：SDQ (子どもの強さと困難さアンケート)

教育現場の現状は、メンタルヘルスの問題への適切な理解と対応が定着しているとは言い難い。平

成28年度に改正された学校保健安全法施行規則では、学校医の行う健康診断を効果的に活用するための保健調査の充実が明記され、小学校、中学校、高等学校及び高等専門学校において全学年で実施することになった。この保健調査は、メンタルヘルスの健康チェックの好機と考えられ、幅広い年齢の児童青年のメンタルヘルス全般を評価しうるしっかりとしたエビデンスのある、しかも簡便な尺度が健診ツール候補となる。SDQ (Strengths and Difficulties Questionnaire：子どもの強さと困難さアンケート；Goodman, 1997) は、そうした尺度の一つで、世界各国で最もよく用いられている。日本版2－4歳児用（親評定、教師評定）、4－17歳児用（親評定、教師評定）、そして自己評定用（11歳～）は開発者らのウェブサイトからダウンロードできる（youthinmind <http://www.sdqinfo.com/py/sdqinfo/b3.py?language=Japanese>）。

SDQには5つの下位尺度が含まれ、困難さに関する下位尺度は4つ、強みに関する下位尺度は1つで、それぞれ5項目、計25項目の質問から構成される。

困難さ (difficulties)：情緒の問題、行為の問題、多動・不注意、仲間関係の問題、の4下位尺度20項目

強み (strengths)：向社会的な行動、の1下位尺度5項目

表1 SDQの下位尺度

情緒の問題 (Emotional Symptoms：ES)	# 3, # 8, # 13, # 16, # 24
行為の問題 (Conduct Problems：CP)	# 5, # 7(逆転項目), # 12, # 18, # 22
多動・不注意 (Hyperactivity/Inattention：HI)	# 2, # 10, # 15, # 21(逆転項目), # 25(逆転項目)
仲間関係の問題 (Peer Problems：PP)	# 6, # 11(逆転項目), # 14(逆転項目), # 19, # 23
向社会的な行動 (Prosocial Behavior：PB)	# 1, # 4, # 9, # 17, # 20
総合的困難さ (TDS：Total Difficulties Score)	合計(PBを除く4つの下位尺度の合計得点)

得点化は、各項目について、「あてはまる（2点）」、「まああてはまる（1点）」、「あてはまらない（0点）」の3件法で回答し、各下位尺度の合計点は0－10点となる。困難さに関する下位尺度は、得点が高いほど困難度が高いことを示す。また、強みとなる向社会的な行動の下位尺度については、得点が高いほど向社会的であることを示す。なお、困難さに関する4つの下位尺度に含まれる20項目の合計得点は、「総合的困難さ（Total Difficulties Score：TDS）」の指標（0－40点）として算出することができる。

2. 日本の児童生徒のSDQ標準値

日本版SDQは、4歳から18歳までの広い年齢の日本の児童青年を対象に標準化されているので、用いる際には、同年齢の日本人児童青年の標準値を参照することができる。開発者らによるウェブサイト（英語）（<http://www.sdqinfo.com/norms/JapaneseNorms.html>）でも、世界各国の標準値とともに日本の児童の標準値が公開されているが、日本版SDQについては別途、ウェブサイトが作成されているので、標準化の詳細はそちらを参照されたい（<https://ddclinic.jp/SDQ/index.html>）。本章では、学齢期に限定して得点分布や平均得点について紹介する。

【小中学生（7－15歳）の標準値】 全国の小・中学校の通常学級に在籍する子ども約25,000人の親

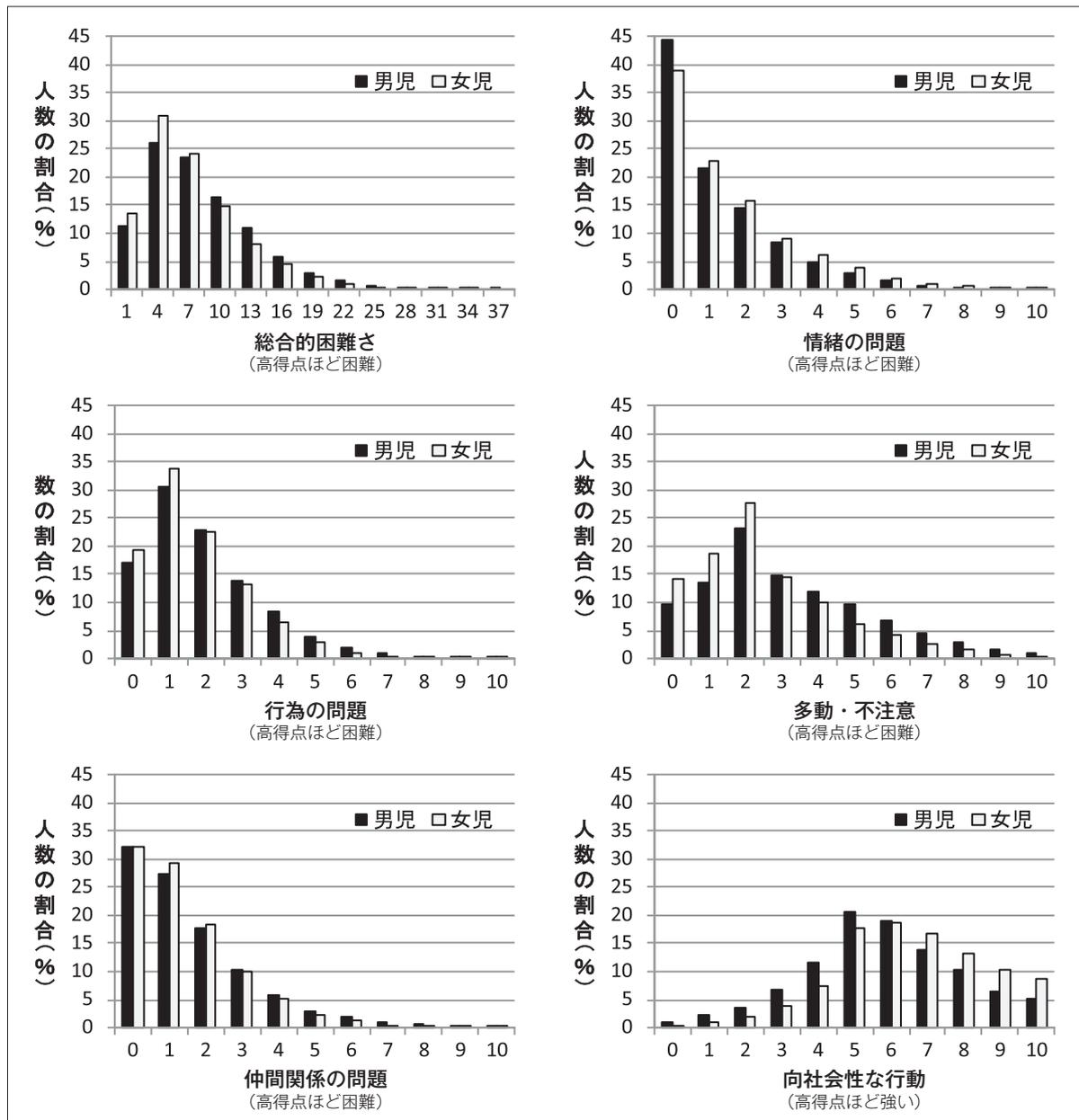


図1 SDQ総合的困難さおよび各下位尺度得点の男女別分布（日本全国の小中学生25,075名）
（森脇ら，2011）

評定および約8,000人の教師評定がベースとなっている（Moriwaki & Kamio, 2014）。図1は、小中学生25,075名についての親評定SDQ得点（総合的困難さ、情緒の問題、行為の問題、多動・不注意、仲間関係の問題、向社会的な行動）の度数分布を男女別にグラフで示したものである（森脇ら, 2011）。図1からわかるように、親評定では得点の男女差がみられる。行為の問題、多動・不注意、仲間関係の問題などの困難さは、男児の方が女児よりもより得点が高い、すなわちより困難さが大きいと評定される一方で、情緒の問題については、女児の方が男児よりも大きく評定されている。

表2、表3に小中学生のSDQの平均得点を、評定者別、年齢帯別、男女別に示す。

表2 親評定SDQ（総合的困難さおよび下位尺度）の平均得点と標準偏差

7－9歳（小学校1年生－3年生）

	合計 (N=10,044)	男児 (N=5,149)	女児 (N=4,895)
総合的困難さ TDS	8.4 (5.1)	9.0 (5.3)	7.8 (4.8)
情緒の問題	1.6 (1.8)	1.5 (1.7)	1.7 (1.8)
行為の問題	2.0 (1.6)	2.2 (1.6)	1.8 (1.5)
多動・不注意	3.3 (2.3)	3.7 (2.4)	2.8 (2.1)
仲間関係の問題	1.5 (1.6)	1.6 (1.7)	1.4 (1.5)
向社会的な行動	6.2 (2.1)	5.8 (2.1)	6.6 (2.0)

10－12歳（小学校4年生－6年生）

	合計 (N=8,479)	男児 (N=4,315)	女児 (N=4,164)
総合的困難さ TDS	7.1 (4.9)	7.6 (5.2)	6.7 (4.6)
情緒の問題	1.3 (1.7)	1.3 (1.6)	1.4 (1.7)
行為の問題	1.7 (1.5)	1.8 (1.6)	1.6 (1.4)
多動・不注意	2.7 (2.1)	3.0 (2.3)	2.3 (1.9)
仲間関係の問題	1.4 (1.6)	1.5 (1.7)	1.4 (1.5)
向社会的な行動	6.2 (2.2)	6.0 (2.2)	6.5 (2.1)

13-15歳（中学校1年生-3年生）

	合計 (N=5,908)	男児 (N=2,964)	女児 (N=2,944)
総合的困難さ TDS	6.8 (4.9)	6.9 (5.1)	6.7 (4.8)
情緒の問題	1.2 (1.7)	1.0 (1.5)	1.4 (1.8)
行為の問題	1.6 (1.4)	1.6 (1.5)	1.6 (1.4)
多動・不注意	2.5 (2.0)	2.7 (2.1)	2.2 (1.8)
仲間関係の問題	1.5 (1.7)	1.5 (1.7)	1.5 (1.6)
向社会的な行動	5.9 (2.2)	5.6 (2.2)	6.2 (2.1)

表3 教師評定SDQ(総合的困難さおよび下位尺度)の平均得点と標準偏差

7-9歳

	合計 (N=3,153)	男児 (N=1,578)	女児 (N=1,575)
総合的困難さ TDS	5.8 (5.7)	7.1 (6.1)	4.4 (4.9)
情緒の問題	0.9 (1.6)	1.0 (1.6)	0.9 (1.5)
行為の問題	1.1 (1.6)	1.3 (1.8)	0.8 (1.3)
多動・不注意	2.5 (2.6)	3.3 (2.8)	1.6 (2.0)
仲間関係の問題	1.3 (1.7)	1.5 (1.8)	1.2 (1.6)
向社会的な行動	6.5 (2.7)	5.7 (2.7)	7.2 (2.5)

10-12歳

	合計 (N=2,902)	男児 (N=1,468)	女児 (N=1,434)
総合的困難さ TDS	4.9 (5.2)	6.2 (5.7)	3.5 (4.2)
情緒の問題	0.7 (1.4)	0.8 (1.5)	0.7 (1.3)
行為の問題	0.9 (1.5)	1.2 (1.7)	0.6 (1.1)
多動・不注意	2.0 (2.3)	2.8 (2.6)	1.2 (1.5)
仲間関係の問題	1.3 (1.7)	1.4 (1.9)	1.1 (1.6)
向社会的な行動	6.5 (2.7)	5.8 (2.7)	7.2 (2.5)

13-15歳

	合計 (N=1,830)	男児 (N=924)	女児 (N=906)
総合的困難さ TDS	4.5 (4.7)	5.3 (5.1)	3.7 (4.1)
情緒の問題	0.6 (1.2)	0.6 (1.2)	0.6 (1.3)
行為の問題	0.8 (1.3)	1.0 (1.5)	0.6 (1.1)
多動・不注意	1.8 (2.0)	2.2 (2.3)	1.3 (1.6)
仲間関係の問題	1.3 (1.7)	1.5 (1.9)	1.1 (1.5)
向社会的な行動	6.3 (2.8)	5.7 (2.8)	6.9 (2.5)

【高校生（16-18歳）の標準値】 これまで高校生を対象とした標準化作業は、現実の手続き上の困難さ（学校間格差、所管教育委員会が都道府県に一括されているなど）から国内では未実施であった。そこで、今回、日本の高校生を対象に、親評定版、教師評定版、本人評定版の3バージョンのSDQの標準化を行うとともに、学校種（全日制／定時制）、性別、学年による得点の比較検討を行うこととした。

表4 全日制高校の調査依頼校数および調査協力校数

	調査依頼校数	調査協力校数	協力率	協力校生徒数
宮城県	8	1	12.5%	300
東京都	38	5	13.2%	2,935
富山県	4	0	0.0%	0
石川県	8	0	0.0%	0
奈良県	8	2	25.0%	1,368
高知県	4	0	0.0%	0
合計	70	8	11.4%	4,603

表5 定時制高校の調査依頼校数および調査協力校数

	調査依頼校数	調査協力校数	協力率	協力校生徒数
宮城県	8	1	12.5%	56
東京都	40	5	12.5%	554
富山県	4	0	0.0%	0
石川県	2	0	0.0%	0
奈良県	6	2	33.3%	113
高知県	10	3	30.0%	109
合計	70	11	15.7%	832

親評定1,548人分（全日制1,418人（男子871人・女子547人）、定時制130人（男子76人・女子54人））、教師評定934人分（全日制701人（男子433人・女子268人）、定時制233人（男子150人・女子83人））、生徒本人評定1,555人分（全日制1,464人（男子873人・女子542人）、定時制140人（男子78人・女子62人））の回答を分析の対象とした。表6―表11に、評定者別（親／教師／本人）・学校種別（全日制高校／定時制高校）のSDQの平均得点（標準偏差）を示す。

<親評定・全日制高校>

表6 高校生(全日制)の親評定SDQの平均得点と標準偏差

	合計 (N=1418)	男児 (N=871)	女児 (N=547)
総合的困難さ TDS	6.8 (4.6)	7.3 (4.8)	6.1 (4.1)
情緒の問題	1.3 (1.8)	1.2 (1.7)	1.5 (2.0)
行為の問題	1.4 (1.4)	1.6 (1.5)	1.2 (1.2)
多動・不注意	2.3 (1.9)	2.6 (2.0)	1.8 (1.6)
仲間関係の問題	1.8 (1.6)	2.0 (1.7)	1.5 (1.4)
向社会的な行動	6.2 (2.2)	5.9 (2.3)	6.6 (2.1)

統計学的検定の結果、向社会的な行動は、1年生、2年生よりも3年生の得点が有意に高く、3年生の方がより向社会的であることが明らかとなった。向社会的な行動を除く困難さならびに総合的困難さに関する得点については、学年による平均得点の有意な差は見られなかった。

性による違いについては、困難さに関する得点のうち、情緒の問題では女児が男児よりも有意に問題が多かったが、それ以外の困難さならびに総合的困難さでは男児が女児よりも有意に困難さが大きかった。向社会的な行動は、女児が男児よりも有意に得点が高く、女児の方がより向社会的であった。

<親評定・定時制高校>

表7 高校生(定時制)の親評定SDQの平均得点と標準偏差

	合計 (N=130)	男児 (N=76)	女児 (N=54)
総合的困難さ TDS	10.6 (6.2)	10.2 (5.9)	11.2 (6.6)
情緒の問題	2.3 (2.3)	1.8 (1.9)	3.0 (2.7)
行為の問題	2.0 (1.7)	2.0 (1.6)	2.0 (1.8)
多動・不注意	3.3 (2.3)	3.4 (2.2)	3.1 (2.4)
仲間関係の問題	3.1 (2.2)	3.0 (2.3)	3.1 (2.0)
向社会的な行動	6.2 (2.2)	5.9 (2.2)	6.6 (2.2)

統計学的検定の結果、学年による平均得点の有意な差はなかった。男女差は、情緒の問題は女児が男児よりも有意に問題が多かったが、それ以外の困難さならびに総合的困難さ、向社会的な行動は、男女間で平均得点の有意差は見られなかった。

親評定SDQ平均得点を学校種別で比較すると、総合的困難さ、情緒の問題、行為の問題、多動・不注意、仲間関係の問題は、定時制生徒が全日制生徒よりも有意に困難さが大きかった。男女差パターンは学校種別で異なっており、総合的困難さについては、全日制高校では男児が女児よりも有意に困難さが大きかったが、定時制高校では男女差は見られなかった。情緒の問題については、女子生徒により多くの問題がみられる傾向は、定時制高校ではより顕著であった。

<教師評定・全日制高校>

表8 高校生(全日制)の教師評定SDQの平均得点と標準偏差

	合計 (N=701)	男児 (N=433)	女児 (N=268)
総合的困難さ TDS	5.4 (4.9)	6.0 (5.0)	4.3 (4.6)
情緒の問題	0.8 (1.6)	0.8 (1.6)	0.8 (1.6)
行為の問題	0.8 (1.2)	0.9 (1.3)	0.6 (1.1)
多動・不注意	2.3 (2.2)	2.6 (2.3)	1.7 (1.9)
仲間関係の問題	1.5 (1.6)	1.7 (1.6)	1.2 (1.4)
向社会的な行動	5.8 (2.8)	5.4 (2.8)	6.5 (2.8)

統計学的検定の結果、総合的困難さは、1年生に比べて3年生の方が有意に困難さが大きいことが示された。仲間関係の問題は、1年生、2年生よりも3年生の得点が有意に高く、3年生の方がより

困難が大きいことが明らかとなった。それ以外の困難さでは、学年による平均得点の有意な差は見られなかった。向社会的な行動は、3年生に比べて1年生の方が有意に得点が高く、学年が上がると仲間関係の問題が大きくなり、向社会的行動が少なくなっていた。

男女差については、情緒の問題以外（行為の問題、多動・不注意、仲間関係の問題、総合的困難さ）の困難さにおいて有意差が見られ、男児の方が困難さが大きかった。向社会的な行動は、女兒の方がより向社会的であることが示された。

<教師評定・定時制高校>

表9 高校生(定時制)の教師評定SDQの平均得点と標準偏差

	合計 (N=233)	男児 (N=150)	女兒 (N=83)
総合的困難さ TDS	9.2 (5.7)	9.3 (5.5)	8.9 (6.0)
情緒の問題	1.6 (2.1)	1.3 (1.8)	2.2 (2.4)
行為の問題	1.7 (1.8)	1.7 (1.8)	1.6 (1.7)
多動・不注意	3.4 (2.7)	3.8 (2.7)	2.9 (2.5)
仲間関係の問題	2.5 (1.8)	2.6 (1.8)	2.3 (1.8)
向社会的な行動	4.7 (2.9)	4.4 (2.8)	5.3 (2.9)

統計学的検定の結果、学年による平均得点の有意な差は見られなかった。性差については、困難さに関する得点のうち情緒の問題は女兒が男児よりも有意に問題が多かったが、多動・不注意では男児が女兒よりも有意に問題が多かった。それ以外の困難さならびに総合的困難さでは、男女間で平均得点の有意な差は見られなかった。向社会的な行動は、女兒が男児よりも有意に得点が高く、女兒の方がより向社会的であることが示された。

教師評定SDQの学校種別の比較では、総合的困難さ、情緒の問題、行為の問題、多動・不注意、仲間関係の問題は、定時制生徒が全日制生徒よりも有意に困難さが大きかった。向社会的な行動は、全日制生徒が定時制生徒よりも有意に得点が高く、全日制生徒の方がより向社会的であることが示された。男女差パターンは、情緒の問題では学校種別で異なり、定時制高校では女兒が男児よりも有意に情緒の問題が多かったが、全日制高校では男女差は見られなかった。

<本人評定・全日制高校>

表10 高校生(全日制)の本人評定SDQの平均得点と標準偏差

	合計 (N=1415)	男児 (N=873)	女児 (N=542)
総合的困難さ TDS	10.6 (5.5)	11.0 (5.5)	10.2 (5.4)
情緒の問題	3.2 (2.4)	3.0 (2.3)	3.6 (2.6)
行為の問題	1.8 (1.5)	1.9 (1.6)	1.5 (1.3)
多動・不注意	3.5 (2.1)	3.7 (2.2)	3.2 (2.0)
仲間関係の問題	2.2 (1.6)	2.3 (1.7)	1.9 (1.5)
向社会的な行動	6.0 (2.1)	5.7 (2.1)	6.5 (1.9)

統計学的検定の結果、仲間関係の問題は、1年生よりも2年生と3年生の方が問題が多いことが明らかとなった。それ以外の困難さならびに総合的困難さ、向社会的な行動については、学年による平均得点の有意差は見られなかった。

男女差については、困難さに関する得点のうち、情緒の問題は女児が男児よりも有意に問題が多かったが、それ以外の困難さならびに総合的困難さは男児が女児よりも有意に困難さが大きかった。向社会的な行動は、女児が男児よりも有意に得点が高く、女児の方がより向社会的であることが本人評定からも明らかとなった。

<本人評定・定時制高校>

表11 高校生(定時制)の本人評定SDQの平均得点と標準偏差

	合計 (N=140)	男児 (N=78)	女児 (N=62)
総合的困難さ TDS	13.5 (6.0)	13.0 (6.2)	14.2 (5.8)
情緒の問題	3.7 (2.7)	3.3 (2.5)	4.4 (2.9)
行為の問題	2.5 (1.9)	2.4 (1.6)	2.6 (2.2)
多動・不注意	4.1 (2.3)	4.1 (2.2)	4.1 (2.4)
仲間関係の問題	3.2 (1.9)	3.3 (1.9)	3.2 (1.9)
向社会的な行動	5.3 (2.2)	5.0 (2.1)	5.6 (2.3)

統計学的検定の結果、学年による平均得点の有意な差は見られなかった。

男女差については、情緒の問題では女児が男児よりも有意に問題が多かったが、それ以外の困難さならびに総合的困難さ、向社会的な行動については、男女間で平均得点の有意な差は見られなかった。

本人評定SDQの平均得点を学校種別で比較すると、総合的困難さ、情緒の問題、行為の問題、多動・

不注意、仲間関係の問題は定時制生徒が全日制生徒よりも有意に困難さが大きかった。男女差パターンは学校種別によって異なっており、総合的困難さおよび行為の問題については全日制高校で男児が女児よりも有意に困難さが大きかったが、定時制高校では男女差は見られなかった。向社会的な行動については、全日制生徒が定時制生徒よりも有意に得点が高く、全日制生徒の方がより向社会的であることが明らかとなった。

【パーセンタイル表】

表12-23は、小学校、中学校、高校（全日制および定時制）の児童生徒のSDQ得点の度数分布を、男女別、年齢帯別、評定者別に示している。開発者らによるウェブサイトでも、世界各国の標準値とともに日本の児童の標準値が公開されている（英語 <http://www.sdqinfo.com/norms/JapaneseNorms.html>）。

表12 7－9歳児の親評定SDQ得点(総合的困難さ)の度数分布

得点	全体 (N=10,044)		男児 (N=5,149)		女児 (N=4,895)	
	%	累積 %	%	累積 %	%	累積 %
0	1.3%	1.3%	1.0%	1.0%	1.6%	1.6%
1	2.7%	4.0%	2.4%	3.3%	3.1%	4.7%
2	4.9%	8.8%	4.2%	7.6%	5.5%	10.2%
3	7.0%	15.8%	6.1%	13.7%	7.9%	18.1%
4	8.6%	24.4%	7.4%	21.1%	9.9%	28.0%
5	8.8%	33.2%	8.0%	29.1%	9.6%	37.6%
6	8.2%	41.4%	7.2%	36.3%	9.2%	46.7%
7	7.9%	49.2%	7.6%	43.9%	8.1%	54.8%
8	8.1%	57.3%	8.2%	52.2%	7.9%	62.7%
9	7.3%	64.6%	7.6%	59.7%	7.0%	69.7%
10	6.4%	71.0%	6.7%	66.4%	6.2%	75.9%
11	5.3%	76.3%	5.6%	72.0%	5.1%	80.9%
12	4.4%	80.7%	5.2%	77.1%	3.6%	84.5%
13	4.0%	84.7%	4.8%	81.9%	3.2%	87.7%
14	3.3%	88.0%	3.6%	85.5%	2.9%	90.6%
15	2.5%	90.5%	3.0%	88.5%	2.0%	92.7%
16	2.1%	92.7%	2.5%	91.0%	1.7%	94.4%
17	1.6%	94.3%	1.9%	93.0%	1.4%	95.7%
18	1.4%	95.7%	1.6%	94.6%	1.1%	96.8%
19	0.9%	96.6%	1.1%	95.7%	0.6%	97.5%
20	0.8%	97.4%	1.0%	96.6%	0.7%	98.1%
21	0.6%	98.0%	0.7%	97.4%	0.5%	98.6%
22	0.5%	98.5%	0.7%	98.0%	0.3%	98.9%
23	0.5%	99.0%	0.6%	98.6%	0.4%	99.3%
24	0.3%	99.2%	0.4%	99.0%	0.1%	99.5%
25－40	0.8%	100.0%	1.0%	100.0%	0.5%	100.0%

表13 7－9歳児の教師評定SDQ得点(総合的困難さ)の度数分布

得点	全体 (N=3,153)		男児 (N=1,578)		女児 (N=1,575)	
	%	累積 %	%	累積 %	%	累積 %
0	15.5%	15.5%	9.4%	9.4%	21.7%	21.7%
1	9.7%	25.2%	7.5%	16.9%	11.9%	33.6%
2	11.6%	36.8%	10.1%	26.9%	13.1%	46.7%
3	8.6%	45.4%	8.4%	35.3%	8.8%	55.5%
4	8.3%	53.7%	8.2%	43.5%	8.4%	63.9%
5	6.1%	59.8%	5.9%	49.4%	6.2%	70.1%
6	6.1%	65.8%	6.0%	55.5%	6.1%	76.2%
7	5.0%	70.8%	5.9%	61.3%	4.0%	80.2%
8	4.4%	75.2%	5.8%	67.2%	3.1%	83.2%
9	3.9%	79.1%	4.2%	71.4%	3.6%	86.9%
10	3.0%	82.1%	3.7%	75.0%	2.2%	89.1%
11	2.6%	84.7%	3.6%	78.6%	1.6%	90.7%
12	2.5%	87.2%	3.4%	82.0%	1.7%	92.3%
13	1.9%	89.1%	2.2%	84.2%	1.6%	93.9%
14	1.8%	90.8%	2.7%	86.9%	0.9%	94.8%
15	1.6%	92.5%	2.2%	89.1%	1.0%	95.8%
16	1.1%	93.5%	1.2%	90.3%	0.9%	96.7%
17	1.2%	94.7%	1.7%	92.0%	0.7%	97.4%
18	1.1%	95.8%	1.8%	93.7%	0.4%	97.8%
19	0.9%	96.6%	1.3%	95.1%	0.4%	98.2%
20	0.8%	97.4%	1.3%	96.3%	0.3%	98.5%
21	0.4%	97.8%	0.6%	97.0%	0.2%	98.7%
22	0.4%	98.2%	0.7%	97.7%	0.1%	98.7%
23	0.4%	98.5%	0.5%	98.2%	0.2%	98.9%
24	0.4%	98.9%	0.4%	98.5%	0.4%	99.3%
25－40	1.1%	100.0%	1.5%	100.0%	0.7%	100.0%

表14 10—12歳児の親評定SDQ得点(総合的困難さ)の度数分布

得点	全体 (N=8,479)		男児 (N=4,315)		女児 (N=4,164)	
	%	累積 %	%	累積 %	%	累積 %
0	2.7%	2.7%	2.6%	2.6%	2.9%	2.9%
1	4.5%	7.2%	4.2%	6.7%	4.8%	7.7%
2	7.1%	14.3%	6.5%	13.2%	7.7%	15.4%
3	9.8%	24.1%	8.6%	21.9%	10.9%	26.3%
4	10.5%	34.5%	9.7%	31.5%	11.4%	37.7%
5	10.2%	44.7%	9.2%	40.7%	11.2%	48.9%
6	8.9%	53.6%	8.6%	49.4%	9.2%	58.1%
7	8.0%	61.7%	8.0%	57.3%	8.1%	66.1%
8	7.3%	68.9%	7.9%	65.2%	6.6%	72.8%
9	5.6%	74.5%	5.8%	71.0%	5.3%	78.1%
10	4.7%	79.2%	5.1%	76.1%	4.3%	82.4%
11	3.9%	83.1%	4.2%	80.3%	3.6%	86.0%
12	2.9%	86.1%	3.6%	83.9%	2.3%	88.3%
13	2.6%	88.7%	3.2%	87.1%	2.1%	90.3%
14	2.6%	91.2%	2.7%	89.8%	2.4%	92.7%
15	1.9%	93.1%	2.1%	91.9%	1.6%	94.4%
16	1.5%	94.6%	1.6%	93.5%	1.3%	95.7%
17	1.2%	95.8%	1.3%	94.8%	1.2%	96.9%
18	0.9%	96.7%	1.0%	95.7%	0.9%	97.8%
19	0.7%	97.4%	0.9%	96.6%	0.5%	98.3%
20	0.6%	98.0%	0.7%	97.4%	0.4%	98.7%
21	0.6%	98.6%	0.7%	98.1%	0.4%	99.1%
22	0.3%	98.9%	0.4%	98.5%	0.2%	99.4%
23	0.3%	99.2%	0.4%	98.8%	0.3%	99.6%
24	0.2%	99.4%	0.3%	99.1%	0.1%	99.7%
25—40	0.6%	100.0%	0.9%	100.0%	0.3%	100.0%

表15 10-12歳児の教師評定SDQ得点(総合的困難さ)の度数分布

得点	全体 (N=2,902)		男児 (N=1,468)		女児 (N=1,434)	
	%	累積 %	%	累積 %	%	累積 %
0	19.0%	19.0%	11.4%	11.4%	26.7%	26.7%
1	11.1%	30.1%	9.4%	20.8%	12.9%	39.6%
2	12.3%	42.4%	11.4%	32.3%	13.2%	52.8%
3	10.4%	52.9%	10.0%	42.3%	10.9%	63.7%
4	8.0%	60.8%	8.0%	50.3%	8.0%	71.6%
5	6.8%	67.6%	7.4%	57.7%	6.2%	77.8%
6	4.7%	72.3%	5.0%	62.7%	4.3%	82.1%
7	4.3%	76.6%	5.0%	67.8%	3.6%	85.6%
8	3.3%	79.9%	4.1%	71.9%	2.6%	88.2%
9	3.1%	83.0%	3.0%	74.9%	3.1%	91.4%
10	3.0%	86.0%	3.8%	78.7%	2.2%	93.5%
11	2.1%	88.1%	3.0%	81.7%	1.1%	94.6%
12	2.1%	90.2%	3.3%	85.0%	0.9%	95.5%
13	1.5%	91.7%	2.2%	87.2%	0.8%	96.3%
14	1.5%	93.2%	2.0%	89.2%	1.0%	97.3%
15	1.3%	94.5%	2.0%	91.1%	0.6%	97.8%
16	0.9%	95.3%	1.6%	92.7%	0.1%	98.0%
17	1.2%	96.6%	1.8%	94.6%	0.6%	98.6%
18	0.8%	97.4%	1.3%	95.8%	0.3%	98.9%
19	0.5%	97.8%	0.7%	96.5%	0.2%	99.1%
20	0.6%	98.4%	0.9%	97.4%	0.2%	99.3%
21	0.3%	98.7%	0.6%	98.0%	0.1%	99.4%
22	0.4%	99.1%	0.7%	98.7%	0.1%	99.5%
23	0.3%	99.4%	0.5%	99.2%	0.1%	99.7%
24	0.2%	99.6%	0.3%	99.5%	0.1%	99.8%
25-40	0.4%	100.0%	0.5%	100.0%	0.2%	100.0%

表16 13—15歳児の親評定SDQ得点(総合的困難さ)の度数分布

得点	全体 (N=5,908)		男児 (N=2,964)		女児 (N=2,944)	
	%	累積 %	%	累積 %	%	累積 %
0	2.9%	2.9%	3.0%	3.0%	2.8%	2.8%
1	4.8%	7.7%	4.5%	7.5%	5.0%	7.9%
2	8.4%	16.1%	8.5%	16.0%	8.3%	16.2%
3	11.1%	27.2%	10.9%	26.9%	11.3%	27.5%
4	11.9%	39.1%	11.5%	38.4%	12.3%	39.8%
5	10.3%	49.4%	10.0%	48.4%	10.7%	50.4%
6	9.4%	58.8%	9.6%	58.0%	9.1%	59.6%
7	7.1%	65.9%	7.0%	65.0%	7.2%	66.8%
8	6.4%	72.2%	6.4%	71.5%	6.3%	73.0%
9	4.7%	77.0%	4.6%	76.0%	4.9%	77.9%
10	3.7%	80.7%	3.8%	79.8%	3.6%	81.5%
11	3.7%	84.4%	4.0%	83.8%	3.4%	84.9%
12	2.9%	87.3%	2.8%	86.6%	3.1%	88.0%
13	2.4%	89.7%	2.4%	89.0%	2.4%	90.4%
14	2.0%	91.7%	2.3%	91.3%	1.7%	92.1%
15	1.7%	93.4%	1.9%	93.2%	1.6%	93.7%
16	1.6%	95.1%	1.4%	94.6%	1.9%	95.6%
17	1.2%	96.2%	1.4%	96.0%	1.0%	96.5%
18	0.9%	97.1%	0.8%	96.8%	0.9%	97.4%
19	0.7%	97.8%	0.5%	97.4%	0.8%	98.2%
20	0.4%	98.2%	0.4%	97.8%	0.4%	98.5%
21	0.4%	98.5%	0.3%	98.1%	0.4%	99.0%
22	0.3%	98.9%	0.5%	98.6%	0.2%	99.2%
23	0.3%	99.2%	0.3%	98.9%	0.2%	99.4%
24	0.2%	99.4%	0.3%	99.2%	0.2%	99.6%
25—40	0.6%	100.0%	0.8%	100.0%	0.4%	100.0%

表17 13-15歳児の教師評定SDQ得点(総合的困難さ)の度数分布

得点	全体 (N=1,830)		男児 (N=924)		女児 (N=906)	
	%	累積 %	%	累積 %	%	累積 %
0	18.6%	18.6%	14.7%	14.7%	22.6%	22.6%
1	11.4%	30.0%	10.6%	25.3%	12.1%	34.8%
2	12.1%	42.1%	12.5%	37.8%	11.7%	46.5%
3	12.1%	54.2%	10.5%	48.3%	13.7%	60.2%
4	9.1%	63.2%	8.1%	56.4%	10.0%	70.2%
5	7.2%	70.4%	6.9%	63.3%	7.5%	77.7%
6	5.5%	75.9%	5.8%	69.2%	5.1%	82.8%
7	3.2%	79.1%	3.9%	73.1%	2.4%	85.2%
8	3.8%	82.8%	4.7%	77.7%	2.9%	88.1%
9	3.2%	86.1%	4.0%	81.7%	2.4%	90.5%
10	3.4%	89.5%	4.4%	86.2%	2.4%	92.9%
11	2.3%	91.8%	2.8%	89.0%	1.8%	94.7%
12	1.4%	93.2%	1.7%	90.7%	1.1%	95.8%
13	1.3%	94.5%	1.5%	92.2%	1.0%	96.8%
14	0.8%	95.3%	1.1%	93.3%	0.6%	97.4%
15	0.9%	96.2%	1.0%	94.3%	0.9%	98.2%
16	0.6%	96.8%	1.0%	95.2%	0.2%	98.5%
17	0.8%	97.7%	1.3%	96.5%	0.3%	98.8%
18	0.2%	97.8%	0.2%	96.8%	0.1%	98.9%
19	0.3%	98.1%	0.5%	97.3%	0.1%	99.0%
20	0.7%	98.8%	0.9%	98.2%	0.4%	99.5%
21	0.3%	99.1%	0.5%	98.7%	0.0%	99.5%
22	0.3%	99.3%	0.3%	99.0%	0.2%	99.7%
23	0.1%	99.5%	0.2%	99.2%	0.0%	99.7%
24	0.2%	99.6%	0.3%	99.6%	0.0%	99.7%
25-40	0.4%	100.0%	0.4%	100.0%	0.3%	100.0%

表18 全日制高校生（16－18歳）の親評定SDQ得点（総合的困難さ）の度数分布

得点	全体（N=1,418）		男児（N=870）		女児（N=548）	
	%	累積 %	%	累積 %	%	累積 %
0	2.3%	2.3%	2.2%	2.2%	2.6%	2.6%
1	4.9%	7.2%	4.5%	6.7%	5.5%	8.0%
2	7.4%	14.6%	5.7%	12.4%	10.0%	18.1%
3	9.9%	24.5%	9.1%	21.5%	11.1%	29.2%
4	11.0%	35.5%	10.1%	31.6%	12.4%	41.6%
5	10.8%	46.3%	10.5%	42.1%	11.3%	52.9%
6	10.9%	57.1%	11.0%	53.1%	10.6%	63.5%
7	8.0%	65.1%	7.8%	60.9%	8.2%	71.7%
8	6.8%	71.9%	7.0%	67.9%	6.4%	78.1%
9	5.9%	77.8%	6.8%	74.7%	4.6%	82.7%
10	4.4%	82.2%	4.6%	79.3%	4.0%	86.7%
11	3.0%	85.2%	3.4%	82.8%	2.4%	89.1%
12	3.6%	88.8%	3.9%	86.7%	3.1%	92.2%
13	2.0%	90.8%	2.4%	89.1%	1.5%	93.6%
14	1.9%	92.7%	1.7%	90.8%	2.2%	95.8%
15	1.8%	94.5%	2.4%	93.2%	0.7%	96.5%
16	1.2%	95.7%	1.5%	94.7%	0.7%	97.3%
17	0.8%	96.5%	1.0%	95.7%	0.5%	97.8%
18	1.1%	97.6%	1.0%	96.8%	1.1%	98.9%
19	0.6%	98.2%	0.8%	97.6%	0.4%	99.3%
20	0.4%	98.7%	0.5%	98.0%	0.4%	99.6%
21	0.5%	99.2%	0.8%	98.9%	0.0%	99.6%
22	0.1%	99.2%	0.1%	99.0%	0.0%	99.6%
23	0.2%	99.4%	0.2%	99.2%	0.2%	99.8%
24	0.2%	99.6%	0.3%	99.5%	0.0%	99.8%
25－40	0.3%	100.0%	0.4%	100.0%	0.2%	100.0%

表19 全日制高校生（16－18歳）の教師評定SDQ得点（総合的困難さ）の度数分布

得点	全体（N=701）		男児（N=433）		女児（N=268）	
	%	累積 %	%	累積 %	%	累積 %
0	14.7%	14.7%	9.9%	9.9%	22.4%	22.4%
1	8.8%	23.5%	9.0%	18.9%	8.6%	31.0%
2	8.7%	32.2%	6.0%	24.9%	13.1%	44.0%
3	9.3%	41.5%	9.0%	33.9%	9.7%	53.7%
4	10.0%	51.5%	10.6%	44.6%	9.0%	62.7%
5	8.4%	59.9%	7.6%	52.2%	9.7%	72.4%
6	7.7%	67.6%	10.4%	62.6%	3.4%	75.7%
7	5.1%	72.8%	5.1%	67.7%	5.2%	81.0%
8	6.6%	79.3%	8.8%	76.4%	3.0%	84.0%
9	4.9%	84.2%	5.3%	81.8%	4.1%	88.1%
10	3.9%	88.0%	4.8%	86.6%	2.2%	90.3%
11	3.3%	91.3%	3.5%	90.1%	3.0%	93.3%
12	1.3%	92.6%	1.6%	91.7%	0.7%	94.0%
13	0.9%	93.4%	0.7%	92.4%	1.1%	95.1%
14	0.9%	94.3%	0.7%	93.1%	1.1%	96.3%
15	1.1%	95.4%	1.6%	94.7%	0.4%	96.6%
16	0.4%	95.9%	0.5%	95.2%	0.4%	97.0%
17	0.7%	96.6%	1.2%	96.3%	0.0%	97.0%
18	0.6%	97.1%	0.7%	97.0%	0.4%	97.4%
19	0.4%	97.6%	0.2%	97.2%	0.7%	98.1%
20	0.6%	98.1%	0.7%	97.9%	0.4%	98.5%
21	0.3%	98.4%	0.5%	98.4%	0.0%	98.5%
22	0.6%	99.0%	0.5%	98.8%	0.7%	99.3%
23	0.3%	99.3%	0.2%	99.1%	0.4%	99.6%
24	0.3%	99.6%	0.2%	99.3%	0.4%	100.0%
25－40	0.3%	100.0%	0.6%	100.0%	0.0%	100.0%

表20 全日制高校生（16－18歳）の本人評定SDQ得点（総合的困難さ）の度数分布

得点	全体（N=1,415）		男児（N=873）		女児（N=542）	
	%	累積 %	%	累積 %	%	累積 %
0	0.1%	0.1%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%
1	0.8%	1.0%	1.1%	1.4%	0.4%	0.4%
2	1.5%	2.5%	1.4%	2.7%	1.7%	2.0%
3	2.7%	5.2%	2.3%	5.0%	3.3%	5.4%
4	6.2%	11.4%	5.6%	10.7%	7.2%	12.5%
5	6.6%	18.0%	5.6%	16.3%	8.1%	20.7%
6	6.5%	24.5%	6.2%	22.5%	7.0%	27.7%
7	7.8%	32.3%	7.2%	29.7%	8.9%	36.5%
8	8.1%	40.4%	8.2%	37.9%	7.7%	44.3%
9	7.8%	48.1%	7.0%	44.9%	9.0%	53.3%
10	7.8%	56.0%	7.7%	52.6%	8.1%	61.4%
11	5.0%	61.0%	5.4%	58.0%	4.4%	65.9%
12	6.0%	67.0%	7.0%	64.9%	4.4%	70.3%
13	5.1%	72.1%	5.6%	70.6%	4.2%	74.5%
14	4.9%	77.0%	5.3%	75.8%	4.4%	79.0%
15	4.6%	81.6%	4.9%	80.8%	4.1%	83.0%
16	3.8%	85.4%	3.1%	83.8%	5.0%	88.0%
17	3.2%	88.6%	3.1%	86.9%	3.3%	91.3%
18	2.6%	91.2%	3.1%	90.0%	1.8%	93.2%
19	1.6%	92.9%	2.2%	92.2%	0.7%	93.9%
20	2.0%	94.9%	2.5%	94.7%	1.3%	95.2%
21	1.3%	96.2%	1.5%	96.2%	0.9%	96.1%
22	0.5%	96.7%	0.6%	96.8%	0.4%	96.5%
23	1.0%	97.7%	0.9%	97.7%	1.1%	97.6%
24	0.8%	98.5%	0.7%	98.4%	1.1%	98.7%
25	0.3%	98.8%	0.2%	98.6%	0.4%	99.1%
26	0.1%	98.9%	0.0%	98.6%	0.2%	99.3%
27－40	1.1%	100.0%	1.3%	100.0%	0.8%	100.0%

表21 定時制高校生（16－18歳）の親評定SDQ得点（総合的困難さ）の度数分布

得点	全体（N=130）		男児（N=76）		女児（N=54）	
	%	累積 %	%	累積 %	%	累積 %
0－2	3.9%	4.6	3.6%	3.9%	5.6%	5.6%
3	3.8%	7.7%	5.3%	7.9%	1.9%	7.4%
4	5.4%	13.1%	5.3%	13.2%	5.6%	13.0%
5	5.4%	18.5%	6.6%	19.7%	3.7%	16.7%
6	12.3%	30.8%	14.5%	34.2%	9.3%	25.9%
7	9.2%	40.0%	9.2%	43.4%	9.3%	35.2%
8	9.2%	49.2%	7.9%	51.3%	11.1%	46.3%
9	4.6%	53.8%	2.6%	53.9%	7.4%	53.7%
10	2.3%	56.2%	3.9%	57.9%	0.0%	53.7%
11	7.7%	63.8%	7.9%	65.8%	7.4%	61.1%
12	2.3%	66.2%	2.6%	68.4%	1.9%	63.0%
13	5.4%	71.5%	5.3%	73.7%	5.6%	68.5%
14	3.8%	75.4%	6.6%	80.3%	0.0%	68.5%
15	4.6%	80.0%	5.3%	85.5%	3.7%	72.2%
16	1.5%	81.5%	0.0%	85.5%	3.7%	75.9%
17	2.3%	83.8%	1.3%	86.8%	3.7%	79.6%
18	3.1%	86.9%	0.0%	86.8%	7.4%	87.0%
19	1.5%	88.5%	1.3%	88.2%	1.9%	88.9%
20	3.1%	91.5%	3.9%	92.1%	1.9%	90.7%
21	0.8%	92.3%	1.3%	93.4%	0.0%	90.7%
22	2.3%	94.6%	2.6%	96.1%	1.9%	92.6%
23	1.5%	96.2%	1.3%	97.4%	1.9%	94.4%
24	2.3%	98.5%	1.3%	98.7%	3.7%	98.1%
25－40	1.6%	100.0%	1.3%	100.0%	1.9%	100.0%

表22 定時制高校生（16－18歳）の教師評定SDQ得点（総合的困難さ）の度数分布

得点	全体（N=233）		男児（N=150）		女児（N=83）	
	%	累積 %	%	累積 %	%	累積 %
0	0.9%	0.9%	0.0%	0.0%	2.4%	2.4%
1	3.0%	3.9%	4.0%	4.0%	1.2%	3.6%
2	6.0%	9.9%	4.0%	8.0%	9.6%	13.3%
3	5.2%	15.0%	4.0%	12.0%	7.2%	20.5%
4	6.9%	21.9%	7.3%	19.3%	6.0%	26.5%
5	7.3%	29.2%	8.0%	27.3%	6.0%	32.5%
6	6.4%	35.6%	5.3%	32.7%	8.4%	41.0%
7	6.4%	42.1%	7.3%	40.0%	4.8%	45.8%
8	9.9%	51.9%	12.0%	52.0%	6.0%	51.8%
9	5.2%	57.1%	5.3%	57.3%	4.8%	56.6%
10	8.6%	65.7%	10.0%	67.3%	6.0%	62.7%
11	4.3%	70.0%	4.0%	71.3%	4.8%	67.5%
12	6.0%	76.0%	5.3%	76.7%	7.2%	74.7%
13	4.7%	80.7%	2.0%	78.7%	9.6%	84.3%
14	3.9%	84.5%	2.7%	81.3%	6.0%	90.4%
15	3.9%	88.4%	4.7%	86.0%	2.4%	92.8%
16	1.7%	90.1%	2.7%	88.7%	0.0%	92.8%
17	1.7%	91.8%	2.7%	91.3%	0.0%	92.8%
18	1.7%	93.6%	2.0%	93.3%	1.2%	94.0%
19	1.3%	94.8%	2.0%	95.3%	0.0%	94.0%
20－21	0.9%	95.7%	1.3%	96.7%	0.0%	94.0%
22－25	3.4%	99.1%	2.7%	99.3%	4.8%	98.8%
26－40	0.8%	100.0%	0.7%	100.0%	1.2%	100.0%

表23 定時制高校生（16－18歳）の本人評定SDQ得点（総合的困難さ）の度数分布

得点	全体（N=140）		男児（N=78）		女児（N=62）	
	%	累積 %	%	累積 %	%	累積 %
0－3	1.4%	2.1%	0.0%	0.0%	3.2%	4.8%
4－5	5.0%	6.4%	7.7%	7.7%	1.6%	4.8%
6	7.1%	13.6%	9.0%	16.7%	4.8%	9.7%
7	2.9%	16.4%	2.6%	19.2%	3.2%	12.9%
8	5.0%	21.4%	5.1%	24.4%	4.8%	17.7%
9	7.1%	28.6%	10.3%	34.6%	3.2%	21.0%
10	7.9%	36.4%	7.7%	42.3%	8.1%	29.0%
11	4.3%	40.7%	5.1%	47.4%	3.2%	32.3%
12	5.0%	45.7%	3.8%	51.3%	6.5%	38.7%
13	7.1%	52.9%	6.4%	57.7%	8.1%	46.8%
14	5.0%	57.9%	3.8%	61.5%	6.5%	53.2%
15	5.7%	63.6%	7.7%	69.2%	3.2%	56.5%
16	4.3%	67.9%	3.8%	73.1%	4.8%	61.3%
17	4.3%	72.1%	2.6%	75.6%	6.5%	67.7%
18	10.0%	82.1%	9.0%	84.6%	11.3%	79.0%
19	3.6%	85.7%	0.0%	84.6%	8.1%	87.1%
20	4.3%	90.0%	5.1%	89.7%	3.2%	90.3%
21	0.7%	90.7%	1.3%	91.0%	0.0%	90.3%
22	0.7%	91.4%	0.0%	91.0%	1.6%	91.9%
23	2.1%	93.6%	1.3%	92.3%	3.2%	95.2%
24	0.7%	94.3%	1.3%	93.6%	0.0%	95.2%
25	1.4%	95.7%	1.3%	94.9%	1.6%	96.8%
26	2.1%	97.9%	3.8%	98.7%	0.0%	96.8%
27－40	2.1%	100.0%	1.3%	100.0%	3.2%	100.0%

このように高校生を対象としたSDQ日本版の標準化が完了したことにより、4歳から18歳までの日本の児童青年のメンタルヘルスの指標が示されることとなった。これを参照することで研究だけでなく、臨床場面や教育場面においてもSDQが活用され、メンタルヘルスの問題への適切な理解と対応が充実していくことが期待される。特に、教育現場においては、標準化されたSDQを、前述の保健調査^{脚注1)}や学校健診の項目とすることで、児童生徒の包括的な健康状態を知ることができ、また学校が行っている心の健康教育の取り組みの評価の指標ともなりうるだろう。現時点で身体健康だけでなくメンタルヘルス関連項目を含めた保健調査票用紙を公開している都道府県教育委員会は見当たらない。ぜひ、日本の子どもで標準化され、かつ数多くの研究成果のあるSDQのような尺度項目を用いることで、家族との話し合いにおいても前向きな対応をすすめていくのに役立つであろう。

3. 学校でのメンタルヘルス健診ツールとしてのSDQ

児童青年がメンタルヘルスの問題を抱えて苦しんでいるとき、乗り越えていくのを本人にまかせているだけでは不適切で、そこには適切なサポートが必要であることは先行研究から明らかである(Copeland et al., 2015)。上掲の高校生についての表6-11をみるとわかるように、困難さの捉え方は、一般的に親や教師が評定するよりも、本人は主観的により強く困難を感じている。したがって、児童生徒のメンタルヘルスについて解釈を行う際には、親、教師、本人から回答を得、さらにSDQ以外の情報も集めたうえで、総合的に判断することが大切である。見立てに迷うようであれば、校内での情報共有とカンファレンスを行い、メンタルヘルスの専門家の助言を得ながら、対応力の向上に努めていただきたい。

研究でしばしば用いる区分例に、高得点児の上位10%（向社会性は下位10%）を臨床範囲、次の10%を境界範囲、残りの80%を正常範囲という一つの目安がある。しかしながら、標準化の対象はあくまでも一般の児童生徒であって、診断を受けた児童生徒ではないため、これはあくまでも便宜的な目安である。したがって、日本ではまだ〇〇点以上で臨床的に問題があるとみなせるカットオフについては、検証されていないため、得点だけでその子どものニーズについて判断できないことに注意していただきたい。このことを踏まえて、開発者との話し合いの結果、現時点では日本版ではカットオフを推奨しないこととしている。

実際、学校などで一般児童生徒を対象とする場合には、スクリーニングとして、およそ10%（性と年齢に応じて標準値を参照されたい）のメンタルヘルス全般のハイリスク児を選ぶことは妥当である。ハイリスク児とわかった児童生徒についてはできるだけ複数の教職員情報も集め、ていねいな行動観察と対応を行う。そのなかで、早期対応によっても行動が変わらない、情報収集により重篤な問題を抱えていると思われた場合には、得られた情報をもとに親や教師、養護教諭、学外からのスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、可能なら、児童精神科医などのメンタルヘルスの専門家が参加するケースカンファレンスを開いて全員で子ども像を共有したうえで、とるべき対応について話し合うことであろう。日本の教育現場の実情を踏まえると、まず学校内でできる支援について校内で合意の得られた結論を出し、学校で支援を実施したうえで、家族との話し合いをすることが次のステップに進むためには必要不可欠と思われる。小中学校でのメンタルヘルス対策事業としてSDQをスクリーニングツールとして活用している実践例も報告されている（全，2018）。学校が医療機関

に頼るだけでなく、地域のさまざまな福祉サービスなど多領域のサービス機関との連携を持ち、学校を基点とした多機関連携をコーディネートできるようになれば、すべての子どもに連続性を保った包括的な心の健康支援が実現すると期待される（神尾，2017）。

注

脚注1)「家庭や学校の日常の様子など、健康診断の前に情報がまとまっていれば、学校医・学校歯科医としてよりの確な診断を行うことができる。また、健康に関する情報を保護者に提供してもらうことが、保護者の問題意識と学校の健康診断をつなぐ大事な架け橋になるとともに、学校においても、本当に必要な情報が何であるかについて、認識を深めることができる。その際には、既に診断されている疾患についても、合わせて情報を共有することが求められる。」学校保健安全法施行規則より抜粋。

文献

Copeland, W. E., Wolke, D., Shanahan, L., & Costello, E. J. (2015). Adult functional outcomes of common childhood psychiatric problems: A prospective, longitudinal study. *JAMA Psychiatry*, 72, 892-899.

Goodman, R (1997). The Strengths and Difficulties Questionnaire: a research note. *Journal of Child Psychology and Psychiatry*, 38, 581-586.

神尾陽子 (2017) . 子どもの心の健康を学校で育て、守る：教育と医療を統合した心の健康支援. 叢書23子どもの健康を育むために—医療と教育のギャップを克服する—, pp.99-114. 編集 神尾陽子, 桃井眞里子, 児玉浩子, 山中龍宏, 高田ゆり子, 衛藤隆, 原寿郎, 水田祥代, 日本学術協力財団, 東京.

Moriwaki, A., & Kamio, Y. (2014). Normative data and psychometric properties of the Strengths and Difficulties Questionnaire among Japanese school-aged children. *Child and Adolescent Psychiatry and Mental Health*, 8, 1. doi: 10.1186/1753-2000-8-1

森脇愛子, 小山智典, 神尾陽子 (2011) . 通常学級に在籍する一般児童・生徒における自閉症的行動特徴と発達精神医学的ニーズとの関連. 平成22年度厚生労働科学研究費補助金 障害者対策総合研究事業 精神障害分野「1歳からの広汎性発達障害の出現とその発達の变化：地域ベースの横断的および縦断的研究（研究代表者：神尾陽子）」総括・分担研究報告書, pp.69-82.

全有耳 (2018) . 地域機関との連携による学校における思春期メンタルヘルス対策. 特集・発達障害支援における包括的かつ連携した多領域支援—医療・教育・福祉の垣根を超えるために—. 発達障害研究, 40, 299-304.